

次世代のものづくりを担う小・中・高校生を対象に、デザインを活用したものづくりの魅力や可能性を伝え、理解を深めることで将来のデザイン人材の育成につなげる「デザインの魅力発見プログラム事業」。初回となる本年度は「みんなで作る未来のくるま」をテーマに、カーデザイナーの杉谷昌保氏を講師に迎え、3つのプログラムを開催しました。

デザインの魅力発見プログラム「みんなで作る未来のくるま」



身近な存在をテーマに学ぶ「ものづくり」

車の保有率全国2位を誇る富山県。日々の生活に欠かせない存在であり、子どもたちにとっても身近に感じる「車」を題材に、ものづくりの可能性やデザインの魅力を発見してもらうプログラムを開催しました。小・中・高校生対象の各プログラムに共通して、講師の杉谷氏よりカーデザイナーの仕事についてレクチャーを実施。企画から完成まで3～4年かかるという開発プロセスは、3DやVR技術の台頭とともに加速的に変化しています。新しい技術を取り入れながらより良いものをつくりたいと奮闘する姿は子どもたちにとっても刺激となりました。また、開発から販売、その後のサポートに関わるデザイナー以外の多くの人についても説明していただき、ものづくりへの携わり方の様々な可能性を感じることができました。

驚きと発見を生んだデザイン体験

県内の小学生と保護者を対象に開催した回では約60組が

参加し、「V.fomer Lab※」を用いて立体的な車のデザインを体験しました。デジタル技術が身近に存在するなか、アナログ手法で2D(平面)を3D(立体)にする体験は参加した小学生のみならず、保護者にも興味深いものとなったようです。

中学生、高校生を対象に行ったワークショップでは計19名が参加。参加者が持ち寄った「未来のくるま」のアイデアをもとに講師にスケッチを行っていただきました。過程を経てデザインを深めるプロセスは、思いつきや感覚だけでは生むことのできない、説得力のある有意義なデザインを生み出すことを実感しました。最後に当センターの新施設「バーチャルスタジオ」でVR体験も行い、先端技術にも触れました。

子どもたちの柔軟な発想と活発さにもものづくりの将来に期待が高まるとともに、子どもたちのものづくりへの関心が深まるプログラムとなりました。

※「V.fomer Lab(バイ・フォーマーラボ)」とは講師の杉谷氏が開発に携わった手動真空成型機で、手動ポンプで機材に真空を蓄えた後、専用の熱した樹脂シートを型に押し当て、真空の力で立体を成型することができます。